



「未来にチャレンジ」できるように

24日に2月定例会が閉会しました。最終日に予算や条例などの反対討論をしながら考えたのは「市民がいつでも何度でも未来にチャレンジできるように」という市長の言葉を実現させるためには、取り残されがちになる弱い立場の人たちへのあたたかい目線とお金の使い方が必要なのではないのか、ということでした。

チャレンジ！といわれてもそんなことできない！という声は聞こえてきます。

給料は下がるし、ものは上がるのに、税金取られるし、医療・介護と負担増。まずは下支えではないかと思えます。

「議会と当局は車の両輪」そんな発言が議長から出ましたが、車の行き先こそ大事。ハンドルを切り、必要なブレーキをかけることも議会の仕事だと思えます。



お達者半額タクシー助成の実証実験は3月末で一旦終了

利用された方はいらっしゃいますか？南部の利用が少ないなど問題も出て、再考が必要との判断で、一旦終了するそうです。(新年度中に実施内容を修正し実証実験を再開予定)来年は地域公共交通計画の策定も行なわれます。担当は協働推進課から都市政策課に移ります。より利用しやすいものにしての継続を訴えます。

ご意見をお寄せ下さい。

令和3年度お達者半額タクシー実証実験実績(2月までの実績)

	掛タク		ライフ		計
	1月	2月	1月	2月	
件数(件)	449	614	569	575	2,207
運賃(円)	652,180	921,330	811,940	817,030	3,202,480
利用者負担額(円)	357,750	497,400	438,190	440,880	1,734,220
助成額(円)	294,430	423,930	373,750	376,150	1,468,260

利用者エリア(掛川95%・大東4%・大須賀1%)

「地域に小学校がなくなる」でいいですか

- ・学校再編に関して教育委員会としての方向性はもうすでに決まっている
- ・今後は市長部局(資産経営課)で話を進める
- ・学校の設置を決めるのは市長



教育委員会への学校再編計画策定予算付けがないことが不思議ですが、市はとどのつまりこういう考えのようです。

そして出ている方向は、学校すべてを中学校単位の小中一貫校として統合する。教育委員会は2年前に市民に小中一貫教育のまとめを地区の説明会で示したことで、市民にこの合意を取っている、と考えているようなのです。だからこの論議はもう教育委員会としてやる必要はない。市民にも説明をした。

22ある市内小学校をなくすのに2つのモデル地域(原野谷・城東)での検討委員会結論を全市に当てはめていいのか。

分離型の学校や複合化した小学校の例などもちりばめて市民説明をしておいて、市として小中一貫校しか考えていない、というのはまやかしてはならないでしょうか。

こんなやりかたには賛成できません。地域に小学校を残しましょう！

地域のある方検討委員会などにも出席し、一般質問でも何度か取り上げてきましたが、私は全市を小中一貫校にまとめるといふ方針は住民合意がとれないと考えています。

映画「咲む」をみて



ろうあ連盟主催の上映会。会話が手話の家族は音声がなくともちゃんと伝わる。でも私は字幕や筆記がないと大切な事が伝わらない。「手話言語」という意味がだいぶ分かりました。合理的配慮を広げ、バリアをなくすことが大事ですね。